

|     |                                                                                                                                                                        |                                                 |                                                  |                                                    |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|--------------------------------------------------|----------------------------------------------------|
| 問1  | 5世紀の日本において、大和政権が広範囲を支配していたことを示す証拠として、埼玉県の稲荷山古墳から出土した鉄剣があります。この鉄剣には表面に金象嵌（きんぞうがん）で文字が刻まれており、そこに見られる、当時の大和政権の王を指す名称として正しいものを選びなさい。<br><small>（2014年 和歌山県公立入試 類似）</small> |                                                 |                                                  |                                                    |
|     | 1. 中大兄皇子                                                                                                                                                               | 2. 聖徳太子                                         | 3. ワカタケル大王                                       | 4. 卑弥呼                                             |
| 問2  | 古墳時代の前期において、同じ鋳型（いがた）で作られた「三角縁神獣鏡」などの銅鏡が、遠く離れた各地の有力者の古墳から共通して発見されています。このような現象は、当時の日本（倭）におけるどのような政治的状況を物語っていますか。<br><small>（2016年 高山県公立入試 類似）</small>                   |                                                 |                                                  |                                                    |
|     | 1. 仏教が伝来したことで、全国の有力者が同じ教義を信じ、同じ意匠の鏡を自ら作成した状況                                                                                                                           | 2. 大陸の王朝が日本全土を直接統治しており、各地の役所に同じ規格の鏡を配布した状況      | 3. 日本各地の村々が独自に大陸と貿易を行い、流行していた同じデザインの鏡を輸入した状況     | 4. 大和政権が、支配下に入った各地の有力者に対して支配や同盟の証として鏡を配付した状況       |
| 問3  | 埼玉県の稲荷山古墳から見つかった「ワカタケル大王」の銘文がある鉄剣と、熊本県の江田船山古墳から見つかった同様の銘文がある鉄刀は、5世紀後半の日本列島の政治状況についてどのようなことを物語っていますか。最も適切な説明を選んでください。<br><small>（2016年 三重県公立入試 類似）</small>              |                                                 |                                                  |                                                    |
|     | 1. 大陸との交易はすべて関東地方の豪族が独占しており、鉄器の製造技術を独占していたこと                                                                                                                           | 2. 関東地方と九州地方の有力な豪族が連合し、近畿地方のヤマト政権と対立していたこと      | 3. 日本列島は各地の豪族によって完全に分割統治されており、中央集権的な組織は存在しなかったこと | 4. ヤマト政権の政治的な影響力が、九州から関東地方に及ぶほど広範囲に拡大していたこと        |
| 問4  | 3世紀後半から古墳時代にかけて造られた、円形の後円部と方形（四角形）の前方部を組み合わせた、上空から見ると鍵穴のような形をしている古墳の名称を答えなさい。<br><small>（2018年 長崎県公立入試 類似）</small>                                                     |                                                 |                                                  |                                                    |
|     | 1. 前方後円墳                                                                                                                                                               | 2. 円墳                                           | 3. 方墳                                            | 4. 積石塚                                             |
| 問5  | 4世紀から7世紀頃にかけて、朝鮮半島や中国大陸から日本列島へ移住し、鉄器の製作、須恵器の生産、さらには漢字や仏教などの高度な技術や文化を伝えた人々を何と呼ぶか、最も適切なものを選びなさい。<br><small>（2017年 徳島県公立入試 類似）</small>                                    |                                                 |                                                  |                                                    |
|     | 1. 渡来人                                                                                                                                                                 | 2. 弥生人                                          | 3. 遣唐使                                           | 4. 防人                                              |
| 問6  | 5世紀の日本において、倭の五王と呼ばれる王たちが中国の南朝へ繰り返し使節を送った目的として、最も適切な説明はどれですか。<br><small>（2017年 長野県公立入試 類似）</small>                                                                      |                                                 |                                                  |                                                    |
|     | 1. 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に勝利するための軍事同盟を、中国の王朝と結ぶため                                                                                                                             | 2. 中国皇帝から王としての国際的な地位を認められ、朝鮮半島南部での立場を有利にするため    | 3. 沿岸部で活動し周辺諸国を苦しめていた倭寇を取り締まるよう、中国から要請を受けたため     | 4. 平城京を造営するためのモデルとして、中国の都の仕組みを詳しく調査するため            |
| 問7  | 2019年に「百舌鳥・古市古墳群」の一部として世界文化遺産に登録された大仙陵古墳（仁徳天皇陵古墳）について、その形状と発見された遺物の組み合わせとして適切なものはどれですか。<br><small>（2020年 東京都公立入試 類似）</small>                                           |                                                 |                                                  |                                                    |
|     | 1. 形状：前方後円墳、遺物：人や動物の形をした埴輪                                                                                                                                             | 2. 形状：前方後円墳、遺物：大陸から伝わった陶磁器の破片                   | 3. 形状：円墳、遺物：青銅で作られた大型の銅鐸                         | 4. 形状：方墳、遺物：死者の身分を示すための仏像                          |
| 問8  | 5世紀ごろ、朝鮮半島における勢力争いや戦乱を避けて日本列島へ移住し、須恵器の製作や金属加工、土木などの高度な技術、および漢字や儒教を伝えた人々を何と呼びますか。<br><small>（2026年 高知県公立入試 類似）</small>                                                  |                                                 |                                                  |                                                    |
|     | 1. 防人                                                                                                                                                                  | 2. 倭寇                                           | 3. 朝鮮通信使                                         | 4. 渡来人                                             |
| 問9  | 古墳時代から奈良時代にかけて、朝鮮半島や中国大陸から日本列島へ移り住み、当時の日本に新しい文化や技術を伝えた人々を何と呼びますか。<br><small>（2023年 岡山県公立入試 類似）</small>                                                                 |                                                 |                                                  |                                                    |
|     | 1. 防人                                                                                                                                                                  | 2. 遣唐使                                          | 3. 南蛮人                                           | 4. 渡来人                                             |
| 問10 | 大阪府堺市に位置する大仙古墳（仁徳天皇陵古墳）が属しており、周辺の古墳とともに2019年に世界文化遺産に登録された古墳群の名称として正しいものはどれか。<br><small>（2020年 三重県公立入試 類似）</small>                                                      |                                                 |                                                  |                                                    |
|     | 1. 吉野ケ里遺跡群                                                                                                                                                             | 2. 登呂遺跡群                                        | 3. 三内丸山遺跡群                                       | 4. 百舌鳥・古市古墳群                                       |
| 問11 | 大和政権の性格について、それ以前の弥生時代の社会状況と比較した説明として、最もふさわしいものはどれか。<br><small>（2025年 秋田県公立入試 類似）</small>                                                                               |                                                 |                                                  |                                                    |
|     | 1. 大陸からの渡来人によってもたらされた仏教と文字を政治の基盤として、中央集権的な国家を完成させた。                                                                                                                    | 2. 特定の女王がまじないなどの呪術的な力を用いて、各地の小国完全に服従させ、争いを根絶した。 | 3. 近畿地方の豪族が中心となり、各地の有力な勢力と連合することで広域的な政治支配をめざした。  | 4. 銅鐸を用いた共通の祭祀を通じて、各地の小国が独立性を保ったまま、利害関係のない経済圏を築いた。 |
| 問12 | 5世紀ごろ、大和政権（ヤマト王権）の支配が関東地方や九州地方まで及んでいたことを示す歴史資料があります。埼玉県の稲荷山古墳や熊本県の江田船山古墳から出土した鉄剣・鉄刀に、その名が刻まれていた人物として正しいものを選びなさい。<br><small>（2019年 愛媛県公立入試 類似）</small>                  |                                                 |                                                  |                                                    |
|     | 1. 卑弥呼                                                                                                                                                                 | 2. 聖徳太子                                         | 3. 中大兄皇子                                         | 4. ワカタケル大王                                         |
| 問13 | 埼玉県の稲荷山古墳から「ワカタケル大王」の名が刻まれた鉄剣が出土し、また熊本県の江田船山古墳からも同じ大王の名が刻まれた大刀が出土しました。これらの史料から推測できる、5世紀後半の日本列島の状況として最も適切な説明を選びなさい。<br><small>（2024年 大阪府公立入試 類似）</small>                |                                                 |                                                  |                                                    |
|     | 1. ヤマト政権の政治的な支配力が、関東地方から九州地方まで及んでいた。                                                                                                                                   | 2. 各地域の豪族が独自に強力な軍隊を持ち、ヤマト政権と激しく対立していた。          | 3. 仏教の教えが全国に広まり、各地の豪族が鉄剣を寺院に奉納していた。              | 4. 稲作の技術が伝わったことで、日本列島各地で小国家の統一が始まった。               |
| 問14 | 5世紀の日本各地における古墳の分布状況を見ると、近畿地方で誕生した特定の形式の古墳が、九州から東北地方までの広い範囲に築造されていることが分かります。この歴史的背景について説明した文として、最も適切なものはどれか。<br><small>（2016年 神奈川県公立入試 類似）</small>                      |                                                 |                                                  |                                                    |
|     | 1. 狩猟・採集の生活から、堅穴住居に住む定住生活へと変化した                                                                                                                                        | 2. 墾田永年私財法の施行により、地方の有力者が荘園を形成した                 | 3. 大和政権の支配や政治的なつながりが各地に広がった                      | 4. 仏教の影響により、全国各地で国分寺が建立されるようになった                   |

## 答え合わせ・解説

|     |                                                      |                                                                                                                                                                                                                                |
|-----|------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 問1  | 答え 3<br>ワカタケル大王                                      | 埼玉県の稲荷山古墳から出土した鉄剣には、金象嵌によって「獲加多支鹵（ワカタケル）大王」の名が刻まれています。この王は『日本書紀』や『古事記』に登場する雄略天皇にあたると考えられており、5世紀ごろの大和政権の強力な支配力を示す重要な史料となっています。                                                                                                  |
| 問2  | 答え 4<br>大和政権が、支配下に入った各地の有力者に対して支配や同盟の証として鏡を配付した状況    | 同じ型から作られた鏡が広範囲で見つかることは、中央の大和政権が中国から入手、あるいは国内で製造した鏡を、自らの権威を認めた地方の有力者に分け与えたことを示唆しています。これにより、大和政権を中心とした政治的な連合や支配体制が、近畿地方から遠隔地へと広がっていった背景を読み取ることができます。                                                                             |
| 問3  | 答え 4<br>ヤマト政権の政治的な影響力が、九州から関東地方に及ぶほど広範囲に拡大していたこと     | 遠く離れた埼玉県（稲荷山古墳）と熊本県（江田船山古墳）の両方から、同一の首長（ワカタケル大王）に仕えていたことを示す遺物が見つかったことは、当時のヤマト政権の権威や支配体制が、近畿地方を中心に九州から関東にまで広く浸透していたことを示しています。これは、日本列島における統一国家形成の過程を理解する上で非常に重要な事実です。                                                             |
| 問4  | 答え 1<br>前方後円墳                                        | 古墳時代を代表する墓の形式であり、円形と方形を組み合わせた独特の形状が特徴です。当時の有力者の権力の大きさを示す象徴として、近畿地方を中心に全国各地へ広がりました。                                                                                                                                             |
| 問5  | 答え 1<br>渡来人                                          | 4世紀以降、大陸での戦乱などを背景に、朝鮮半島や中国大陸から優れた技術や知識を持つ人々が日本列島へ移り住みました。彼らは金属加工や土木技術、機織りなどの実用的な技術だけでなく、漢字や儒教、仏教といった学問・宗教も伝え、古代日本の文化や政治の発展に大きな役割を果たしました。                                                                                       |
| 問6  | 答え 2<br>中国皇帝から王としての国際的な地位を認められ、朝鮮半島南部での立場を有利にするため    | 5世紀の古墳時代、倭の五王は中国の南朝に朝貢しました。当時の倭の王は、大陸の強大な王朝から「倭王」としての称号（冊封）を得ることで、自身の権威を国内外に示すとともに、鉄資源の供給地として重要だった朝鮮半島南部における外交的・軍事的な優位性を確保しようと考えました。                                                                                           |
| 問7  | 答え 1<br>形状：前方後円墳、遺物：人や動物の形をした埴輪                      | 大仙陵古墳は、円形と方形を組み合わせた日本最大の方後円墳です。この古墳からは、円筒埴輪だけでなく、当時の衣服や武具の様子を知る手がかりとなる家・人間・動物などをかたどった「形象埴輪」が発見されています。銅鐸は主に弥生時代の祭祀に使われたものであり、仏像は後の飛鳥時代以降に本格的に伝来したものであるため、古墳時代の特徴としては埴輪が最も適切です。                                                  |
| 問8  | 答え 4<br>渡来人                                          | 4世紀から5世紀にかけての朝鮮半島では、高句麗・百済・新羅の三つの国が勢力を争う不安定な情勢にありました。この動乱を逃れて日本に渡ってきた人々は、大和政権に仕えて特定の技術を持つ集団として組織され、それまでの日本にはなかった最新の技術や文化を広める重要な役割を果たしました。これにより、日本の生産力や政治的な組織化が大きく進みました。                                                        |
| 問9  | 答え 4<br>渡来人                                          | 朝鮮半島での戦乱などを背景に、多くの人々が日本列島へ移住しました。彼らは、ため池を作る土木技術や金属加工、機織りなどの実習的な技術だけでなく、漢字や儒教、仏教などの思想や文化も日本に伝え、日本の社会や国家の形成に大きな役割を果たしました。                                                                                                        |
| 問10 | 答え 4<br>百舌鳥・古市古墳群                                    | 大仙古墳は、大阪府堺市の「百舌鳥（もず）古墳群」を代表する古墳です。隣接する羽曳野市・藤井寺市の「古市（ふるいち）古墳群」とともに、古代日本の国家形成過程や階層社会を象徴する物証として評価され、「百舌鳥・古市古墳群―古代日本の墳墓群―」として世界文化遺産に登録されました。                                                                                       |
| 問11 | 答え 3<br>近畿地方の豪族が中心となり、各地の有力な勢力と連合することで広域的な政治支配をめざした。 | 大和政権は、近畿地方の有力豪族が連合して形成された政治組織です。これは、小国が独立して割拠していた弥生時代の状態や、単一の強力な王が全国を直接支配する形態とは異なります。複数の有力な勢力が「連合」という形で結びつくことで、大規模な土木作業が必要な古墳の築造や、対外的な交渉が可能になるほどの広域的な統治体制を整えていったことが大きな特徴です。選択肢にある銅鐸の祭祀や『魏志』倭人伝の記述は、大和政権が成立する以前の弥生時代の特色を指しています。 |
| 問12 | 答え 4<br>ワカタケル大王                                      | 埼玉県の稲荷山古墳や熊本県の江田船山古墳から出土した文字が刻まれた鉄剣・鉄刀には、大和政権の「ワカタケル大王」という名が記されていました。同一人物の名が刻まれた遺物が関東と九州の双方で見つかったことは、5世紀後半には大和政権の支配力が日本列島の広範囲に及んでいたことを証明する重要な根拠となっています。                                                                        |
| 問13 | 答え 1<br>ヤマト政権の政治的な支配力が、関東地方から九州地方まで及んでいた。            | 遠く離れた関東（埼玉県）と九州（熊本県）の両地域から、同一の大王の名を刻んだ刀剣が見つかったことは、当時のヤマト政権が広範囲の豪族を服属させ、統治下に置いていたことを示す重要な歴史的証拠となっています。単なる交易の証拠ではなく、地方の豪族が大王に仕えていたという政治的な背景を裏付けています。                                                                             |
| 問14 | 答え 3<br>大和政権の支配や政治的なつながりが各地に広がった                     | 近畿地方の大王（後の天皇）を中心とする大和政権が、各地の豪族と政治的な同盟や支配関係を結んだことで、勢力の象徴である前方後円墳という同じ形式の古墳が共有されるようになりました。国分寺は8世紀の奈良時代、荘園の拡大は平安時代以降、堅穴住居は縄文・弥生時代からの住居形式であり、5世紀の古墳時代の動向を説明するものではありません。                                                            |